

赤れんがNews

前立腺がん診断と手術成績精度向上へ新装置導入

血液検査によるPSA（前立腺特異抗原）値が高かった場合に、前立腺がんの発症が疑われます。さらに、MRI（磁気共鳴画像装置）検査で前立腺がんを疑う所見を認めた場合、超音波画像で前立腺がんが疑われた部位を確認して生検（組織検査）を行って診断します。

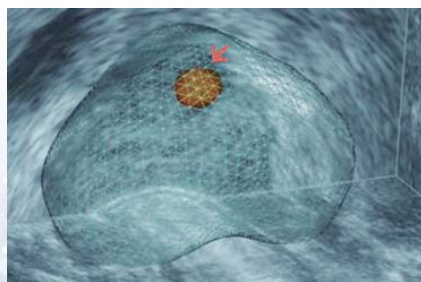
これまで、MRI で前立腺がんを疑われた部位を頭の中でイメージして、経直腸的超音波検査でその部位を一致させて、前立腺生検を行っていました。

今回導入する高精度前立腺ターゲット生検装置「KOELIS TRINITY（コエリス トリニティ）」（図1）は、高解像度のMRI画像と超音波画像を融合させ、前立腺がんが疑われる部位を3D超音波画像で描出することができます。そのため、疑わしい場所から正確に組織を採取することが可能になりますので、より高いがん検出率の向上が期待できます。（図2、3）

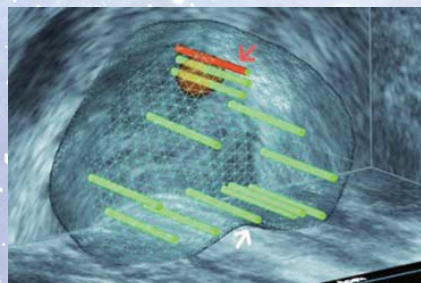
さらに、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術を行うときに、検出された前立腺がんの位置を3D画像で表示し、確認しながら手術を行うことが可能になり、腫瘍の完全切除率の向上が期待できます。（図4）



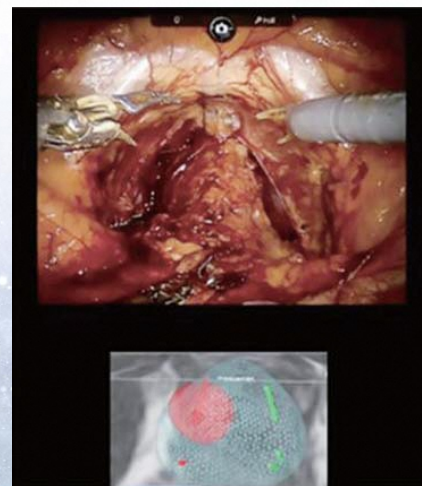
（図1）高精度前立腺ターゲット生検装置「KOELIS TRINITY」



（図2）MRIで指摘された前立腺がんを疑うターゲット



（図3）ターゲットに正確に穿刺した生検針の軌跡。微小がんの検出のため系統的多所生検も併せて行います。



（図4）手術時に術者が見ている画面。上段はダビンチによる前立腺全摘除術の術野。下段はがん病巣（赤丸で表示）を示した3D画像。

皮膚科は4月より新たな診療体制に！

4月より診療体制を強化し、皮膚がん治療を東部地区で完結させることを目標としています。

近年、悪性黒色腫をはじめとして、皮膚がん領域では複数のがん種で手術や薬物療法の選択肢が増え、治療は複雑化してきています。皮膚がんを専門として診療している皮膚科医は全国的にも少なく、これまで悪性黒色腫などは鳥取大学医学部附属病院で主に治療を行っておりましたが、当科でもセンチネルリンパ節*生検や各種薬物療法を行う体制を整え、実施しております。

現在、紹介待機期間が長くなっておりご不便をおかけしておりますが、今後診療支援医師を増員し、待機期間短縮に努めてまいります。

*センチネルリンパ節：がん細胞から最も近いリンパ節。



身体に優しい ロボット手術活躍中です。

通常の開腹・開胸手術や、内視鏡下手術より安全・安心、そして何より精密に手術ができるロボット支援下手術。

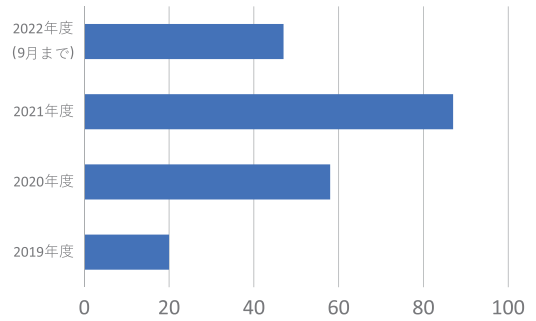
2019年11月にダヴィンチXiを用いた当院での第1例目の手術(胃がん手術)が行われ、その後、前立腺、食道、直腸、腎、2022年4月より肺、縦隔についても適応を開始しており、ロボット手術件数は年々増加しています(右図)。

当院では安全にロボット手術を行うために、医師、看護師、臨床工学士と関係する職種が検討会を定期的に開催し、安全安心度を高めることに取り組んでいます。

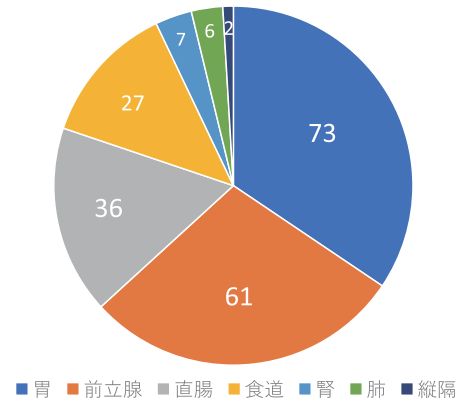
今後も結腸がんや鼠経ヘルニア手術など様々な症例に適応を拡大し、安全で、かつ質の高い手術を行うことで、多くの患者さんに身体に優しいというメリットを実感して頂けるよう努めてまいります。



鳥取県立中央病院でのロボット手術件数



臓器別手術件数 (全212件)



新型コロナ・インフルエンザ 感染が拡大する前の ワクチン接種をご検討ください

今年の冬は新型コロナウイルスとインフルエンザが同時流行するのではないかと懸念されています。

これらの感染症の予防にはワクチン接種が最も有効です。

新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンは同時接種も可能で、接種間隔の制限はありません。接種が可能な方は、積極的にワクチン接種を受けることをご検討ください。

インフルエンザワクチンの有効性に関する国内の研究報告

対象	発病防止
65歳以上の施設に入所している高齢者	34-55%
6歳未満の小児	41-63%
3歳未満の小児	42-62%

日本ワクチン学会 2022-23シーズンの季節性インフルエンザワクチンの接種に関する日本ワクチン学会の見解2022.6.23を基に作成

お知らせ 令和4年度 第2回 市民講座を開催します。

テーマ 「高齢者肺炎について」
と き 令和5年1月28日(土)
14:00~15:45(開場13:30)
場 所 鳥取県立中央病院 1F
多目的ホール



入場無料 事前予約不要

県立中央病院を支える スタッフシリーズ

Vol.05

災害派遣医療チーム(DMAT)

当院は災害拠点病院(鳥取県基幹災害医療センター)として災害時に対応可能な設備を有していますが、その中に「災害派遣医療チーム(DMAT)」があります。

災害発生時に災害現場へ駆けつけ、主に救命活動に従事するチームです。チーム1隊は5名(医師、看護師、調整員(事務))を基本に構成されており、災害が発生すれば、全国を対象に活動を展開します。

